

請 願 文 書 表

受理年月日 及び番号	令和元年11月15日 第32号
件 名	「文の京」自治基本条例の見直しを求める請願
請 願 者	文京区千石四丁目35番16号 文京区において真の「協働・協治」を実現する会 代表 屋和田珠里
紹介議員	海津敦子
請願の要旨	次頁のとおり
付託委員会	総務区民委員会

請願理由

「文の京」自治基本条例（以下、「同条例」といいます。）は、平成 17 年 4 月 1 日に施行され、「条例の見直し」規定が盛り込まれていないこともあり、改正されたのは 1 度だけで、その後 10 年以上改正されていません。

子どもや高齢者も含めて全世代の区民にわかりやすく説明する「逐次解説」を加えるなど、区民の理解を深める工夫もしながら、同条例の理念を一步も二歩も進め、区民がさらに誇れる理念条例にして頂きたく、貴議会に以下の請願を致します。

請願事項

- 1 「文の京」自治基本条例について、現在の区を取り巻く社会・経済・文化構造の激変に適応した内容になっているか、ひとつひとつ再確認するとともに、全国各自治体の自治基本条例及びそれに準じた基本条例を参考に、文京区にふさわしい形で取り入れられるものがあれば取り入れ、さらによりよい自治基本条例とすべく見直しを検討するよう区に働きかけてください。
- 2 「文の京」自治基本条例を見直すに当たっては、「見直し規定」を盛り込むとともに、子どもや高齢者も含めて全世代の区民にわかりやすく説明する「逐次解説」を加えるべく検討するよう区に働きかけてください。

（理由補足）

※現在の区政上の重要なキーワードとして、「多様性(Diversity)」や「多様性」を受け入れる「受容性(Inclusion)」「包摂性(Inclusiveness)」がありますが、現在の自治基本条例では「多様な取組」という文言があるに過ぎず、「多様性」や「受容性」「包摂性」という文言が含まれていません。

※現在の自治基本条例では、2015 年の国連サミットで採択された「SDGs (Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)」の 17 の目標の理念が十分に反映されておらず、「レジリエントシティ」(=自然災害を含めた危機や困難を乗り越える復元力を備えたまちづくり)に関する理念も盛り込まれていません。(注) SDGs の文言やその内容をそのまま盛り込むよう求めているものではなく、あくまでその目標や理念を咀嚼して、文京区に相応しい形で反映する必要があると考えています。

※現在の自治基本条例は、住民自治の原則として「協働・協治」を打ち出していますが、区民ニーズの多様化と高度化、社会・経済構造の複雑化、従来の想定を遥かに超える自然災害に対応するためには「協働」だけでは十分とは言えず、「協創(地域社会の公共的な課題の解決を図るために一緒に考え、有効な施策を一緒に創り上げていくこと)」や「協心戮力(全員の力を結集し、一致協力して物事に当たること)」の理念も欠かせなくなっていると考えます。

※現在の条例をつくる際には、当時の杉並区自治基本条例など 14 自治体の先行事例を研究した経緯(区民憲章区民会議参考資料 8)がありますが、文京区が平成 17 年に施行した後、340 以上の自治体で新たに自治基本条例等が施行され、これら全てに学ぶことができます。